

隣の先生

179 たまがった!



薩摩郷句

兼題「青年」

農業疲れを濃い濃いお茶で流れ流げつ
(唱) お茶と情あ 濃い濃い効つ 諸木小春

茶一杯が本当に有難て外勤
(唱) 優し娘御い 惚るそな按配 西ノ園ひらり

コーヒをば嫁は飲んじよいお茶農家
(唱) 何時か茶の味じゆ 覚ゆつどだい 植村昭子

沸かん茶いぐれ亭主しや客く引つ止めつ
(唱) 上がれ上がれち 肝も大つなつ 上村牛歩

昨夜ん泥酔女房ん洪び茶で酔が覚めつ
(唱) 割るそな頭て 少つた効が入つ 北村虎王

大崎短歌会

愛犬を亡くせし友は淋しさを長き電話で訴える今朝 長重悦子

頑なな患者もおのずと唇ひらくヘルパーさんの優しき言動 坂元つる子

墓地に添う石塀をふと見上ぐれば白く優しき野苺の花 内田ちどり

五十余年前に仕立てしわが和服着て娘は茶道のお稽古に行く 徳園芳江

一連の目刺の藁の絆断ち一人昼餉の米寿の吾は 溝口 稔

大崎俳句会

なだらかに稜線のびて山櫻 内田ちどり

給食に添えて嬉しき桜餅 溝口 稔

ほろ苦き青春の味落のとう 中崎ハナエ

宵闇に雪柳ゆれ忌の近し 三浦倫子

春愁の遺族減りゆく慰霊祭 春田昌子

藤川の天神の森春浅し 二見 淑

店先に光集めて吊し雛 桑原正樹



今月の表紙

賑わいと春を呼ぶ芝桜

喜楽のピアガーデン跡地の庭園一面に咲き誇った芝桜。女将の小牟田さんと調理長が3年前から管理されてきたそうです。小牟田さんは、「地域のにぎわいの場になれば」と話し、花の時期には無料開放されていました。

人権啓発シリーズ 27

